



日中笹川医学協カプロジェクト

笹川医学奨学金進修生同学会事業

2019 年度事業報告書

笹川医学奨学金進修生同学会

公益財団法人 日中医学協会

目次

1 短期診療技術研修	1
1.1 腹腔鏡中核医師技術研修	2
2 地域医療支援活動	3
2.1 都江堰地区医療支援活動(第1回)	4
2.2 都江堰地区医療支援活動(第2回)	5
2.3 山西省永和県医療支援活動(中国国家衛生健康委員会国際合作司参加)	6
2.4 日本支部健康講座・健康相談会(第1回)	8
2.5 日本支部健康講座・健康相談会(第2回)	10
3 支部学術会議	12
3.1 遼寧地区交流会	13
3.2 広東湖南地区交流会	16
3.3 吉林地区交流会	19
3.4 華東地区交流会	22
3.5 陝西・河南・河北地区交流会	25
3.6 西南地区交流会	28
3.7 日本支部学術シンポジウム	31
4 日中共同フォーラム	34
4.1 日中がん対策ハイエンドフォーラム	35
4.2 日中高齢者対策ハイエンドフォーラム	38
5 広報活動	41
5.1 『笹川生通訊』第 139 期	42
5.2 『笹川生通訊』第 140 期	50

1 短期診療技術研修

1 短期診療技術研修

1.1 腹腔鏡中核医師技術研修

期 間	： 2019年8月5日(月)～2019年8月8日(木)
会 場	： 吉林大学中日聯誼醫院
実施責任者	： 趙樹華 吉林大学中日聯誼醫院中醫師教授、主任醫師(第4期生) 孫立波 吉林大学中日聯誼醫院胃腸外科主任醫師(第19期生)
受講者	： 外科醫師10名(吉林省、黑龍江省、遼寧省、河北省)
研修内容	： 中日聯誼醫院の教師陣による講義及び実習



開講式



実習講義

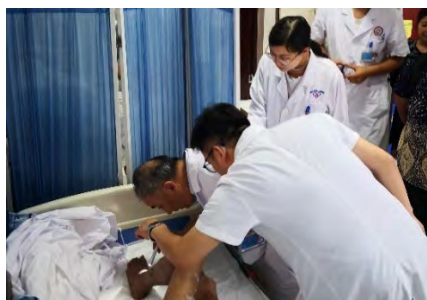
報告：本研修は末端医師の能力作りをキーポイントとし、重点的に医師の腹腔鏡の臨床技能水準と品質の向上を図り、末端医師の臨床診断治療能力の向上を目的とした。研修を通じて、末端の中核医師が今後の診療業務の中でより高い診療サービス品質を持って医療業務に取り組み、積極的に外科医療業務の良好・迅速な発展を促進できることが望まれる。

2 地域医療支援活動

2 地域医療支援活動

2.1 都江堰地区医療支援活動(第1回)

実施日	2019年7月11日(木)
場所	四川省都江堰医療センター
実施責任者	冉玉平 四川大学華西医院皮膚性病科教授(第4期生)
参加者	冉玉平教授、李忠金秘書長、都江堰医療センター皮膚科医師
活動内容	①現場指導 ②カンファレンス ③医療機器贈呈



現場指導



カンファレンス



医療機器贈呈



機器使用指導

報告：都江堰市人民病院皮膚科は、2018年5月から笹川同学会の地域医療支援活動の指定施設となり、半年ごとに四川大学華西病院皮膚科の冉玉平教授をリーダーとするチームによる支援と教育指導を受けるようになった。冉玉平教授をリーダーとする笹川同学会チームは、都江堰市人民病院皮膚科の今後の発展及び人材作りにとって計り知れない価値を持ち、笹川同学会の支援のもとに、都江堰市人民病院皮膚科及びその他の診療科が更にステップアップできると確信する。

2 地域医療支援活動

2.2 都江堰地区医療支援活動(第2回)

実施日：	2019年11月14日(木)
場所：	四川省都江堰医療センター
実施責任者：	冉玉平 四川大学華西医院皮膚性病科教授(第4期生)
参加者：	冉玉平教授、李忠金秘書長、都江堰医療センター皮膚科医師
活動内容：	①「慢性難治性潰瘍の病因」についてカンファレンス ②病棟回診 ③中国における医療提供体制の基層であるコミュニティ医療ステーション(平義社区卫生サービスセンター)視察



カンファレンス



病棟回診



平義社区卫生サービスセンター視察

報告: 都江堰市には5つの社区と22の衛生ステーションがあり、これら全域への支援活動が広がることが期待される。明年は、都江堰市での地域医療支援について総括し、他地域への面的拡大を図る計画をしている。

2 地域医療支援活動

2.3 山西省永和県医療支援活動(中国国家衛生健康委員会国際合作司参加)

期 間 :	2019年10月5日(月)-6日(火)
会 場 :	永和県人民医院内
実施責任者 :	李忠金 笹川同学会秘書長(第12期生)
受講者 :	約60名 永和県各病院、村衛生室医師
研修内容 :	<p>講義① 謝璇 西安交通大学附属第二医院内分泌科教授 「糖尿病の診断治療と患者管理」</p> <p>講義② 顧韵 陝西省郵電医院主任醫師 「呼吸器と循環器一般疾患に対する基本投薬及び管理」</p> <p>講義③ 張軍 西安交通大学附属第二医院消化科主任醫師 「消化器疾患に対する基本投薬及び管理」</p> <p>講義④ 李国棟 西安交通大学日本語科教授 「日本人の生活スタイル及び健康」</p> <p>講義⑤ 張瀝 西安市中心医院主任醫師 「ピロリ菌の予防」</p> <p>質疑応答</p>



開講式



張軍先生



張潔先生

報告：講義中に研修生たちは各自の課題について専門家に打ち明けし、適切なアドバイスももらって、非常に勉強になったと言っていた。専門家の先生たちともっと交流したいとの声も寄せた。今回研修は永和県人民医院及び市町村医師たちの協力のおかげで円満に終えた。

2 地域医療支援活動

2.4 日本支部健康講座・健康相談会(第1回)

実施日：	2019年7月7日(日)
場所：	所沢市中央公民館
実施責任者：	李亜範 日本支部副会長、在日中国人医師協会副理事長(第13期生)
参加者：	日本支部:李亜範、池田アリア、劉瑞芹、蔡偉華、金明姫、孟雪、劉雨桐(7名);関東地区残留孤児帰国者とその家族、関係者等(29名)
活動内容：	<p>①健康講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 李亜範 日本支部副会長 笹川医学奨学金制度及び同学会日本支部の活動の紹介 ・講演 劉瑞芹 日本支部医師部門担当 「漢方医学でいう瘀血症の診断と治療法」 <p>②健康相談会</p> <p>悩み・健康面の相談のコーナーを別々に設け、個別の健康相談を行い、参加者及び家族の健康面での病気、症状、日常生活面での不安や悩み、病院への診療、介護保険制度、医療保険制度などの相談を受け、一人一人の話を傾聴しながら、有益なアドバイス・助言を行った。</p>



講演



健康相談会

報告: 今回の参加者の中、70歳以上の高齢者と日本語が不自由な方は各々半分を占め、参加者全員から満足の回答を得た。またほとんどの参加者から今後は高齢者の健康・介護に関することや生活病の予防等に関する事について、項目別に講義してほしいとの要望があった。今後の健康講座・健康相談会にとっても貴重な参考資料となり、次回の開催がとても期待される。

2019年7月7日第1回健康講座アンケート

配布	回収	回答率	男性	女性	無回答	合計
19	19	100%	8	11		19
		20-25歳	1			1
		40-49歳	1	1		2
		50-59歳		2		2
		60-69歳	2	2		4
		70-79歳	1	6		7
		80-85歳	3			3
		82歳以上				

学歴

小学校	中学校	高校	専門学校	大学	大学院	無記入
7	3	3	2	1	3	

お住まい

所沢市	市外	会場から近い	会場から遠い	無記入
12	7			

来日年数

15-20年	21-25年	26-30年	31-40年	40年以上	回答無し
4	4	7	2	1	1

満足度

かなり満足	満足	やや満足	やや不満足	不満	かなり不満	無記入
5	11	3				1

日本語について

日常会話可能	交流困難	あまりできない	まったくできない
10	2	4	3

講座時間

短った	やや短った	ちょうどよかった	やや長かった	長かった	無記入
2	3	12	2		

交通手段

バス	電車	車	徒歩	無記入
		3	12	4

参加について

ちらし	ポスター	知人から	組織者から	参加したことある	無記入
		8	11		

2 地域医療支援活動

2.5 日本支部健康講座・健康相談会(第2回)

実施日：	2019年11月9日(土)
場所：	一笑苑(東京都板橋区清水町61-9)
実施責任者：	池田マリア 日本支部健康講座担当(第13期生)
参加者：	日本支部:袁世華、高衛華、劉陽、金京子、金明姫、唐春花、許文成、孟雪、朱俊、劉霄、姚利(11名); 関東地区残留孤児帰国者とその家族、関係者等(38名)
活動内容：	<p>①健康講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 金京子 日本支部副会長 笹川医学奨学金制度及び同学会日本支部の活動の紹介 ・講演 唐春花 慶應義塾大学医学部(第40期生) 「脳卒中は我々とどれくらい遠いの」 <p>②健康相談会</p> <p>神経内科、漢方、眼科、歯科、薬物使用等5相談チームに分け、健康相談を行い、参加者及び家族の健康面での病気、症状、日常生活面での不安や悩みを聞きながら、有益なアドバイス・助言を行った。</p>



講演



健康相談会

報告: 今回の参加者の中、70-90歳の高齢者は8割近く示しており、日本語が不自由な方は8割を超えていた。参加者全員からかなり満足・満足の回答を得た。大半の参加者からは本健康講座・健康相談会の時間もちょうどいいとの回答を得た。また3割の参加者からもう少し聞きたいとの声もあった。次回の開催がとても期待される。

2019年11月9日第2回健康講座・健康相談会アンケート

参加者

配布	回収	回答率	男性	女性	無回答	合計
38	38	100%	14	24		38
		年齢別				
		20代		1		1
		30代		1		1
		40代	2	2		4
		61～68歳	3	2		5
		70～77歳	2	10		12
		81～90歳	7	7		14
		不明		1		1

学歴

小学校	中学校	高校	専門学校	大学	大学院	無学歴
14	8	7	6	2		1

お住まい

板橋区内	板橋区外	会場から近い	会場から遠い	無記入
9	14	2	11	2

来日年数

20年以下	21-25年	26-30年	31-40年	40年以上	回答無し
7	4	13	7	3	4

満足度

かなり満足	満足	やや満足	やや不満足	不満	かなり不満	無記入
22	13		1			2

日本語について

日常会話可能	交流困難	あまりできない	まったくできない	無回答
8	11	10	7	2

講座時間

短った	やや短った	ちょうどよかった	やや長かった	長かった	無記入
5	9	22			2

交通手段

バス	電車	車	徒歩	無記入
6	9	17	6	

参加について

ちらし	ポスター	知人から	組織者から	参加したことある	無記入
		6	29	2	1

3 支部学术會議

3 支部学術会議

3.1 遼寧地区交流会

開催日	2019年4月27日(土)
場所	瀋陽北約客維景国際大酒店(遼寧省瀋陽市)
実施責任者	趙群 笹川同学会理事長(第10期生) 許順 中国医科大学附属第一医院胸外科教授(第15期生)
参加者	50名 遼寧省在住の同学会会員
専門家派遣	石垣 靖子 北海道医療大学名誉教授
来賓	尾形武寿 日本財団理事長 佐藤英夫 笹川保健財団理事長 吉倉和宏 日本財団常務理事 中村真美子 日本財団公益事業部 国内事業審査チーム チームリーダー 胡一平 笹川平和財団笹川日中友好基金事業室主任研究員
テーマ	中国の医学教育の現状と課題
プログラム	開会挨拶 趙群 笹川同学会理事長(第10期生) 尾形武寿 日本財団理事長 講演① 石垣靖子 北海道医療大学名誉教授 「Patient から Person への挑戦 -人間尊重の医療の定着をめざして-」 講演② 干曉松 中国医科大学副校長 「中国の高等教育の改革開放 40 年の歩みとイノベーション」 講演③ 姜紅坤 中国医科大学教授 「中国若手医師(助手)の中堅指導者養成制度の実施について」 講演④ 王爽 中国医科大学教授 「中国医科大学における笹川医学奨学金同学会事業 総合医基幹医師養成班一五年間の回顧と展望」 会員情報交流



開会挨拶 趙群先生



尾形武寿理事長 祝辞



石垣靖子先生



看護師の皆さんと集合写真



干晓松副校长



姜紅坤先生



王爽先生



会場様子



集合写真

報告:参加人数がとても多く、討議も活発でした。中国医科大学の学生が会議の運営をサポートしており、親切丁寧かつ気さくな対応で、参加者も同学会の先輩後輩でとても和やかな雰囲気でした。

3 支部学術会議

3.2 広東湖南地区交流会

開催日：	2019年6月15日(土)
場所：	華厦ホテル 11 楼會議センターC ホール(広東省広州市)
実施責任者：	王甲東 中山大学家庭医生雜誌社編集長(第1期生) 丘勇超 広州中医薬大学附属第一医院泌尿男科教授(第5期生)
参加者：	47名 広東省・湖南省在住の同学会会員
テーマ：	分級診療の現状と問題点
プログラム：	<p>開会挨拶 李永国 中南大学湘雅二医院(第1期生) 王甲東 中山大学家庭医生雜誌社(第1期生)</p> <p>講演① 李永国 中南大学湘雅二医院(第1期生) 「医療改革の大潮の中の自分の選択と人生」</p> <p>講演② 丘勇超 広州中医薬大学附属第一医院(第5期生) 「医療機能分化の中の民营医療—私の心得」</p> <p>講演③ 劉煥亮 中山大学附属第六医院(第16期生) 「新しい医療改革政策のもとでの楽しい競争力」</p> <p>講演④ 欧慧敏 知匯医学創新与養成センター 「知匯医学創新与養成センターの紹介」</p> <p>会員情報交流</p>



開会挨拶 王甲東先生



李永国先生



丘勇超先生



劉煥亮先生



集合写真

報告：①テーマが明確で、笹川生一同の関心を寄せ、すべての参加者に考えさせられ、反省させられる会議となった。②特別に招かれたゲストは、自らの経験、社会の発展及び心身・行動など各方面から社会現状を分析し、自分の経験を参加者と共有した。③学術的な内容だが、参加者全員が同じ笹川生 OB のため、講演内容は多くの笹川生のキャリアアップニーズに近いものがあり、好評を受けた。④参加者は広東・湖南からの笹川生の為、お互いのやり取りが活発的で、新しい考えを生み出すことができた。⑤会議の手配は行き届いており、参加者は交通・会議・宿泊に満足している。

参会同学名单

期别	姓名	性别	省份	单位名称	专业	手机
1	王甲寅	男	广东	中山大学 家庭医生杂志社	医学编辑学	13808666308
1	李永国	男	湖南	中南大学湘雅二医院	普外, 肝胆外科	13808453386
2	陈伟东	男	广东	广东省疾病预防控制中心	流行病学	13802437183
3	高耀扬	女	广东	广州医学院第二附属医院妇产科	妇产科	13078783740
4	陆永辉	男	广东	广州医学院第二附属医院神经外科	神经外科	13809040585
5	丘勇超	男	广东	广州中医药大学附属第一医院泌尿男科	普外科	13922528889
10	丁小凡	男	广东	广东省江门市中心医院肿瘤科	肿瘤治疗	18923088336
10	王沙燕	女	广东	深圳市人民医院遗传室	内科	13543302891
10	周芳望	男	广东	中山大学肿瘤医院泌尿外科	泌尿外科	13927735959
10	陈亚中	男	广东	北京大学深圳医院介入科	放射诊断学	13510331558
11	朱翔豪	男	广东	中山大学中山医学院药理	药理学	13925058330
11	刘铁桥	男	广东	深圳市精神卫生中心	精神医学	18928527333
11	王成文	男	广东	北京大学深圳医院功能检查科	激光	
12	卢晋华	男	湖南	湖南师范大学医学院	医教处	13979165508
13	李宝兴	男	广东	深圳大学第三附属医院罗湖医院	泌尿外科	13714028986
16	刘焕亮	男	广东	广州中山大学附属第六医院	检验科	13829785968
16	黄吉成	男	广东	广东出入境检验检疫局检验检疫技术中心 卫生检验检疫室	微生物学	1269706066
18	王翠婷	女	广东	东莞康华医院	整形外科	13717341078
21	曾国沛	男	湖南	中南大学湘雅二医院	普外外科	13898485188
21	阮碧	男	广东	广州中医药大学一附院耳鼻喉科	耳鼻喉科	13929507890
22	黄薇	女	广东	深圳市人民医院妇产科	妇产科	13852421082
22	高晓洁	女	广东	深圳市儿童医院儿科	儿科	18939993980
23	李书清	女	广东	广东药学院中药学院	中药学	13890399989
23	李国伟	男	广东	广州市南方医科大学南方医院药学部	药学	18999999033

期别	姓名	性别	省份	单位名称	专业	手机
25	赵地莉	女	广东	山西医科大学第二医院老干部	护理	13753142121
25	裴福全	男	广东	广东省疾病预防控制中心 微生物防治研究所	微生物学	15985390666
25	陈国新	男	广东	南方医科大学南方医院	关节与骨病外科 (脊柱骨科)	13433323580
28	张成清	男	广东	中山大学附属第三医院急诊科	急诊科	
25	黄治林	男	广东		整形科	15800162051
27	熊志	男	广东	南方医科大学中药学院	中药学	13892402930
27	汤迪	男	广东	中山大学附属第一医院肝胆外科	外科	13556015298
29	魏文洲	男	广东	广州市花都区人民医院	放射科	13822212478
30	刘雅琦	女	广东	中山大学肿瘤医院内科	心内科	88239507
30	何科	女	广东	中山大学附属第一医院	妇产科	1276160869
30	周成斌	男	广东	广东省人民医院 广东省心血管病研究所	心血管外科	13822162170
30	莫志敏	男	广东	南方医科大学药学院	药理学	15168606908
30	何丽冰	女	广东	广州医学院第二附属医院	妇科	13607468525
30	胡芷洋	女	香港	香港中文大学妇产科	妇产科	13612866899
30	王刚	男	广东	广州军区广州总医院	泌尿外科	13889920560
32	谢雄	女	广东	广州医科大学附属第一医院 呼吸疾病研究所	肿瘤内科	13822283235
38	赵中法	男	广东	区科肿瘤医院深圳医院	胸外科	18919058510 15993583668
34	罗翼群	男	湖南	湖南省肿瘤医院	国家药物临床试验机构 办公室	0731-48951569
39	黎慧莉	女	广东	南方医科大学深圳医院	眼科	18124783057

其他参会人员

姓名	性别	省份	单位名称	专业	手机
吴永利	女	广东	暨大药学院学生会		15901209067
卢玄洁	女	广东	广州瑞博奥生物科技有限公司	医学心理学	13829498822
林泳英	女	广东	中山医《家庭医生》健康中心	医学编辑学	13570276890

主题

分级诊疗的现状及其存在的问题

时间

2019年6月15日

地点

华夏大酒店11楼会议中心C厅
(广州市越秀区侨光路8号)

会议日程

时间	主题	演讲嘉宾
13:30-14:00		签到
14:00-14:20	致辞	李永国、王甲东
14:20-14:50	医改大潮中的选择与人生	李永国(中南大学湘雅二医院)
14:50-15:20	分级诊疗中的民营医疗——我的一点体会	丘勇超(广州中医药大学附属第一医院)
15:20-15:50	新医改政策下的快乐竞争力	刘焕亮(中山大学附属第六医院)
15:50-16:10	知汇医学创新与培训中心介绍	欧慧敏(知汇医学创新与培训中心)
16:10-17:00		自由交流
18:00-20:00		晚宴

3 支部学術会議

3.3 吉林地区交流会

開催日	2019年9月7日(土)
場所	吉林世貿万錦大酒店(吉林省長春市)
実施責任者	趙樹華 吉林大学中日聯誼医院(第4期生)
参加者	35名 吉林省在住の同学会会員
テーマ	「医者多点執業(医療従事者は複数施設で勤務すること)」の現状と課題
プログラム	<p>開会挨拶 岡田光子 日中医学協会事務局次長 李忠金 笹川同学会秘書長(第12期生)</p> <p>講演① 李娜 吉林大学第一医院教授(第25期生) 「急性妊娠期における脂肪肝の識別とケア」</p> <p>講演② 孟繁波 吉林大学中日聯誼医院教授(第25期生) 「運動と健康」</p> <p>講演③ 吳龍仁 延辺大学附属医院教授(第20期生) 「多点執業」</p> <p>会員情報交流</p>



開会式



李娜先生



孟繁波先生



吳龍仁先生

2019年笹川医学奨学金同学会吉林分会学术研讨会



集合写真

報告：①会議テーマが明確で本会議の課題は医療従事者全体の関心を寄せる話題の為、会員の参加意欲が高く、反響がよかった。②会議はサロン形式で会員の交流がより密切・自由に行われた。③会議の手配は行き届いており、参加者は交通・会議・宿泊に満足している。



笹川医学奖学金同学会 吉林地区学术研讨会

笹川医学奖学金同学会办公室
地址：北京市海淀区西直门北大街联群路 101 号西畴公寓 C 座 0248
联系电话：010-62256266 15901208067
邮箱：sc1000@vip.163.com
网址：http://www.sskw.net

主办单位：笹川医学奖学金同学会 日中医学协会
支持单位：国家卫生健康委员会 日本财团
承办单位：笹川医学奖学金吉林分会

会议议程

报到时间
2019年9月7日 14:00

会议时间
2019年9月7日 14:30—17:00

晚宴时间
2019年9月7日 17:30—19:00

会议地址
吉林世贸万锦大酒店

会议主题
医生多点执业的现状与课题

会议主持
赵树华教授 4 期 笹川医学奖学金同学会常务理事

会议议程

日中医学协会	事务局次长	冈田光子女士	致辞
笹川医学奖学金同学会	秘书长	李忠金先生 12 期	致辞

演讲题目

吉林大学第一医院	李娜教授 25 期	急性妊娠期脂肪肝的识别和处理
吉林大学中日联谊医院	孟繁波教授 25 期	运动与健康
延边大学附属医院	吴龙仁教授 20 期	多点执业

参会同学名单

期别	姓名	单位名称	职称	E-mail
4	赵树华	吉林大学中日联谊医院中医科	教授	532642753@qq.com
6	林海超	吉林大学口腔医院牙颌外科	教授	linc@jlu.edu.cn
6	林海成	延吉市成济 2 诊部	教授	peihaicheng@sohu.com
8	王广刚	吉林大学的学医	教授	wgs@jlu.edu.cn
12	史培	长春市妇产科医院妇产科	主任医师	shupei06@126.com
12	范新田	北京大学的学医	教授	fanxinlian@126.com
12	李忠金	笹川医学奖学金同学会	秘书长	sc1000@vip.163.com
14	姚秀峰	吉林大学口腔医院口腔黏膜科	副教授	xhw79@sina.com
14	陈建光	北京大学药理学	教授	chenjg118@sohu.com
15	金永日	吉林大学化学学院分析化学系	教授	jinjr0431@163.com
15	张静敏	吉林大学药学院生物化学教研室	教授	jinzhang@jlu.edu.cn
15	唐晓东	北京大学医学部病理学	教授	gakxiaodong@aliyun.com
16	金永日	延边大学理学部化学系	教授	drjin@ybu.edu.cn
17	郑善子	延边大学基础医学院人体寄生虫学	教授	szzheng@ybu.edu.cn
18	赵和荣	延吉镇林医院神经内科	主任医师	zhr0219@163.com
19	孙立波	吉林大学中日联谊医院胃肠外科	主任医师	sunlibo0431@sina.com
20	于庆巍	吉林大学第三附属医院(中日联谊医院)骨科	主任医师	qingweiyu77@126.com
20	梁龙仁	延边大学附属医院	主任医师	longrenwu@aliyun.com
21	吴静	吉林大学第二附属医院心血管内科	教授	zhi_yuan@hotmail.com
21	申睿	吉林省委办公室	副秘书长/地陪	shenrc@jlu.edu.cn
24	邢晓群	吉林省肿瘤医院内科	主任医师	xdejun111162@sohu.com
25	张丽英	吉林大学第三附属医院(中日联谊医院)外科	技师	julia76@163.com
25	李娜	吉林大学第一医院妇产科	副主任技师	linawyswey@sina.com
25	孟繁波	吉林大学中日联谊医院内科	教授	mfangfb@jlu.edu.cn
25	桂明玉	长春博康医药科技有限公司	美工	gui070809@163.com
26	沈淑武	延边大学基础医学院基础医学	主管技师	shenzs@aliyun.com
26	朴美实	延边大学基础医学院基础医学教研室	副教授	yspiaos@ybu.edu.cn
26	孙皎	吉林大学护理学院基础护理教研室	副教授	sunjiao1971@hotmail.com
28	刘丽英	吉林大学第二附属医院医疗协作办公室	副主任技师	liuxianying06@sina.com
29	金文龙	延边大学附属医院内分泌科	教授	kimwenlong@hotmail.com
30	张连波	吉林大学中日联谊医院整形外科	副教授	zhanglianbo_76@163.com
30	刘旭光	吉林大学第一医院心脏外科	主治医师	ruolong20038@aliyun.com
33	崔英兰	延边大学附属医院心血管内科	讲师	ylc138@163.com
39	李君鹏	吉林省人民医院急诊外科	主治医师	lijunpeng0101@163.com
	吴久莉	笹川医学奖学金同学会	办公室	sc1000@vip.163.com

日方参会人员

冈田光子	日中医学协会 事务局次长
------	--------------

3 支部学術会議

3.4 華東地区交流会

開催日：	2019年10月26日(土)
場所：	裕元花園酒店(江蘇省昆山市)
実施責任者：	孫偉 江蘇省中医院腎内科教授(第18期生) 殷猛 上海交通大学医学院附属上海兒童医学中心心胸外科教授(第27期生)
参加者：	45名 本部及び上海市、江蘇省、浙江省、山東省、江西省、北米在住の会員
来賓：	吉倉和宏 日本財団常務理事 中村真美子 日本財団公益事業部 国内事業審査チーム チームリーダー 野村美公 日本財団公益事業部 国内事業審査チーム 胡一平 笹川平和財団笹川日中友好基金事業室主任研究員 伊藤秀俊 日本国駐中国大使館一等書記官
テーマ：	医師の複数医療機関での兼業・副業の現状と課題
プログラム：	開会挨拶 趙群 笹川同学会理事長(第8期生) 吉倉和宏 日本財団常務理事 伊藤秀俊 日本国駐中国大使館一等書記官 本田伸吾 日中医学協会事務局長 講演① 陳軍 上海市東方医院循環器センター主任 「医師の副業・兼業と医療市場化の関係」 講演② 張偉 上海長征医院普通外科主任医師(第30期生) 「兼業・副業:患者便益を如何に保護するか」 講演③ 万双林 浙江大学医学院附属邵逸夫医院(第26期生) 「兼業・副業を考える」 講演④ 孫偉 江蘇省中医院腎内科(第18期生) 「中医の振興と兼業・副業」 特別講演 魯鳳侑 カナダ SOTA 生物医療投資有限公司董事長 カナダ中国健康産業連盟副理事長 「脳卒中リハビリテーションプロジェクトについて」 会員情報交流



開会式



陳軍先生



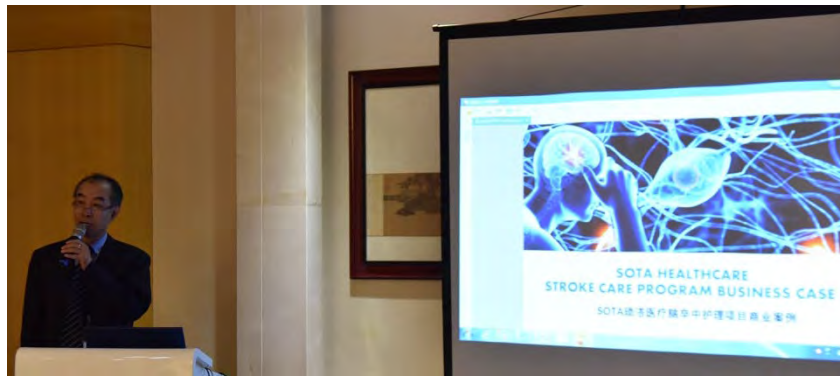
張偉先生



万双林先生



孫偉先生



魯鳳侑先生



集合写真

報告：講演セッションが終了後、熱烈な討論が行われ、笹川生同士もこの場を利用して各自の現状を紹介しあい、笹川生同士の相互理解と感情の促進ができた。日本財団の大きな支援のもとで、笹川生たちは懇親会を催し、一堂に会し、各自の夢と今後への考えを語り合い、久しぶりに再会した同期生、同じ語学センターで学んだことのある先輩・後輩たちは、この貴重な機会を利用して、記念撮影をしたり、過去の出来事を話したり、笹川奨学金制度の人生への大きな影響に感無量する場面がよく見られた。

3 支部学術会議

3.5 陝西・河南・河北地区交流会

開催日：	2019年11月16日(土)
場所：	西安君楽城堡酒店(陝西省西安市)
実施責任者：	李国棟 西安交通大学外国語学院教授(第16期生)
参加者：	52名 本部及び陝西、河北、河南、甘肅、内モンゴル自治区在住の同学会会員、西安交通大学学生
テーマ：	中国の地域医療連携/トリアージの現状と存在する問題
プログラム：	<p>開会挨拶 本田伸吾 日中医学協会事務局長 李忠金 笹川同学会秘書長(第12期生)</p> <p>講演① 王利娟 西安交通大学第一附属医院 「地域医療連携の現状と存在する問題」</p> <p>講演② 郭英 西北大学医学院(第27期生) 「独立第三者の臨床検査(検体検査)受託機関の 地域医療関係支援について」</p> <p>講演③ 田素斎 河北医科大学第二医院(第22期生) 「医師の副業・兼業の現状と現実の問題について」</p> <p>会員情報交流</p>



開会式



王利娟先生



郭英先生



田素斎先生



集合写真

報告：参加者は医療機能分化、「医師多点執業」の課題について、討論を行い、建設的な助言を多く提出した。

2019年笹川医学奖学金同学会 西北、河北及河南地区会议

笹川医学奖学金同学会办公室

地址：北京市海淀区西直门北大街联建路101号西直门
公寓C座0248

联系电话：010-62256266 15901208067

邮 箱：sc1000@vip.163.com

网 址：http://www.sskw.net

主办单位：笹川医学奖学金同学会、日中医学协会

支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团

承办单位：笹川医学奖学金西北、河北及河南分会

2019年11月16日

会议议程

时间	2019年11月16日(周六)	
地点	西安君乐威酒店 二楼安远厅	
安排	11月16日 14:00	报到
	11月16日 14:30—17:30	学术研讨会
	11月16日 18:00	晚宴

学术研讨会日程

主持人	李国栋老师	笹川16期生	笹川医学奖学金同学会常务理事
致词	李忠金先生	笹川医学奖学金同学会	秘书长 致辞
	本田伸吾先生	日中医学协会	事务局局长 致辞

主题演讲和讨论

中国分级诊疗的现状及存在的问题	
1. 特邀发言人	发言人：王利娟 题目：中国分级诊疗的现状及存在的问题
2. 中方讲者	发言人：郭 英 27期生 题目：第三方独立医学实验室助力国家分级诊疗
3. 中方讲者	发言人：田素斋 22期生 题目：谈一谈医生多点执业的现状及其现实问题

参会同学名单

期别	姓名	性别	单位
3	葛 立	男	河北医科大学基础课教学部
8	赵杰刚	女	河南科技大学第一附属医院
10	齐庆友	男	河北医科大学中西医结合学院内科
10	张伟华	男	甘肃省肿瘤医院内二科
11	梅月超	女	河北医科大学基础医学院药理学教研室
12	杨月枝	女	河北师范大学外国语学院
12	李志金	男	笹川医学奖学金同学会
14	朱耀波	男	河北中西医结合皮肤科研究所
14	张登瑞	男	河北医科大学第二医院
14	张福喜	男	河北省疾病预防控制中心
16	李国栋	男	西安交通大学外国语学院
16	叶春峰	男	西安交通大学城市学院图书馆
20	邵万金	男	内蒙古大学生命科学学院生物系
22	田素斋	女	河北医科大学第二医院
26	孔 美	女	河北省人民医院 健康管理科
27	温 华	女	空军军医大学第一附属医院康复与理疗科
27	石婧如	女	河南省胸科医院中心实验室
27	郭 英	女	西北大学医学院
27	谢学军	男	空军军医大学放射医学教研室
31	马慧凡	男	空军军医大学第三附属医院口腔科颌面修复科
33	梁 江	男	空军军医大学第三附属医院 口腔修复科
33	王 雷	男	空军军医大学第三附属医院 口腔修复科
38	成 慧	女	西安交通大学第二附属医院
41	白 丹	女	西安交通大学医学部基础医学院
	刘爱娜	女	西安交大 19 级研究生
	王文娜	女	西安交大 19 级研究生
	周大艺	女	西安交大 19 级研究生
	张金玉	女	西安交大 19 级研究生
	每 乐	女	西安交大 19 级研究生
	成依静	女	西安交大 19 级研究生
	赵明玲	女	西安交大 19 级研究生
	侯梦莹	女	西安交大 19 级研究生
	王雨蒙	女	西安交大 19 级研究生
	张 令	女	西安交大医学本科生

日方参会人员

本田伸吾	日中医学协会	事务局局长
------	--------	-------

3 支部学術会議

3.6 西南地区交流会

開催日	2019年11月23日(土)
場所	成都明宇尚雅飯店(四川省成都市)
実施責任者	劉愛民 中国医学科学院北京協和医学院輸血研究所(第8期生)
参加者	40名 本部及び四川、重慶在住の同学会会員
来賓	伊藤秀俊 日本国駐中国大使館一等書記官
専門家派遣	木村貴文 日本赤十字社近畿ブロック血液センター製剤部長
テーマ	生物由来製品の安全対策
プログラム	<p>開会挨拶 劉愛民 中国医学科学院北京協和医学院輸血研究所(第8期生) 伊藤秀俊 日本国駐中国大使館一等書記官 寄兼良輔 日中医学協会事務局次長 李忠金 笹川同学会秘書長(第12期生)</p> <p>講演① 木村貴文 日本赤十字社近畿ブロック血液センター製剤部長 「日本での血液製剤の安全対策」</p> <p>講演② 劉蘭軍 成都生物製品研究所タンパク質・ワクチン研究室(第30期生) 「Application of Paramyxovirus Reverse Genetics Technology in Vaccine Research & Development」</p> <p>講演③ 黄静 四川大学華西薬学院(第20期生) 「木犀と乳児湿疹—木犀の活性成分製品の研究開発の構想と過程」</p> <p>講演④ 劉愛民 中国医学科学院北京協和医学院輸血研究所(第8期生) 「中国における血液の安全について」</p> <p>会員情報交流</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>劉愛民先生挨拶</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>伊藤秀俊氏挨拶</p> </div> </div>



木村貴文先生



劉蘭軍先生



黃靜先生



劉愛民先生



集合写真

報告：会議のテーマが明確で血液安全とワクチン開発は全医療従事者の関心を寄せる課題の為、参加者は積極的に討論に加わり、いい反響を引き起こした。演者たちは各専門分野のバランスを考慮し、難しい内容をわかりやすく説明し、共通な関心を寄せる血液安全と感染症の課題もあれば、血液（生物）製剤の安全は検査技術のほか、社会的課題を考慮しなければならない課題もあると参加者に呼びかけた。参加者は交流を通じて為になることが多かった。会議は自由発言の形式で会員間の交流がより親しく自由に行われた。

会议议程

时间
2019年11月23日(周六)

地点
成都明宇尚雅饭店 逸雅厅

安排
11月23日 14:00 报到
11月23日 14:30—17:30 学术研讨会
11月23日 18:00 晚宴

会议主题
生物制品安全对策研讨会

学术研讨会

主持人
刘爱民间学 笹川8期生 同学会常务理事
笹川医学奖学金同学会、日中医学协会领导致辞

李忠金先生 笹川医学奖学金同学会 秘书长 致辞
冈田光子女士 日中医学协会 事务局次长 致辞
伊藤秀俊先生 日本驻中国大使馆 一等书记官 致辞

主题演讲和讨论

生物制品安全对策研讨会

1. 日方讲者
木村美文 (Kimura Takafumi) 日本红十字会近畿地区血液中心制剂部 部长
题 目:「日本血液制品的安全对策」
+ 大会合影

2. 中方讲者
刘兰智 第30期生 成都生物制品研究所 重组蛋白疫苗及新冠疫苗研究室 主任
题 目:《新型冠状病毒遗传技术在疫苗研发中的应用》
(Application of Coronavirus Reverse Genetics Technology in Vaccine Research & Development)

3. 中方讲者
黄 静 20期生 四川大学华西药学院 教授
题 目:《桂花与婴儿湿疹——基于桂花活性成分的产品研发思路和历程》

3. 中方讲者
刘爱民 第8期生 中国医学科学院 北京协和医学院 输血研究所 血液安全促进处 副处长
题 目:《中国血液安全概况(中国血液安全について)》

参会同学名单

序号	姓名	性别	单位名称
1	秦学玲	女	四川大学华西医院
1	李廷谦	女	四川大学华西医院
2	秦荣生	男	四川大学华西公共卫生学院
3	魏兵义	男	四川远大蜀阳药业股份有限公司
4	孙健全	男	重庆医科大学解剖教研室
8	刘爱民	男	中国医学科学院输血研究所
9	张建新	男	四川大学华西公共卫生学院
9	孙成均	男	四川大学华西公共卫生学院
11	唐小海	男	重庆康美药业股份有限公司
11	羊育娟	男	四川大学华西医院内科血液科
12	李忠金	男	笹川医学奖学金项目办公室秘书长
18	胡秀美	女	四川大学华西医院华西临床医学院
20	黄 静	男	四川大学华西药学院
20	何 旻	男	成都市第七人民医院内科
21	李鲁平	男	泸州医学院附属医院
21	王修杰	男	四川大学华西医院肿瘤中心肿瘤研究所
22	陈 明	男	重庆医科大学附属第一医院内科
22	田家蓉	女	河北医科大学第二医院
24	张石川	男	四川省肿瘤医院
25	丁群芳	女	四川大学华西医院
27	李可洲	男	四川大学华西医院
28	姚 奕	男	四川省人民医院
28	李树哲	男	成都军区总医院附属口腔医院
28	曹文珍	男	成都中医药大学附属医院
29	黄仲英	女	四川大学华西第二医院妇产科生殖中心
29	凌 华	男	重庆市疾病预防控制中心微生物检测所
30	刘兰智	男	成都生物制品研究所有限责任公司病毒疫苗研究室
34	熊 宇	男	中国人民解放军第三军医大学第一附属医院
36	魏晓涛	女	四川省医学科学院, 四川省人民医院
39	廖映雪	女	四川省成都市疾病预防控制中心
39	叶 媛	男	南京红十字血液中心
40	陈小东	男	四川省肿瘤医院

日方参会人员

1	冈田光子	日中医学协会	事务局次长
2	黄静良晴	日中医学协会	事务局长期速

3 支部学術会議

3.7 日本支部学術シンポジウム

開催日	2019年10月20日(日)
場所	学校法人国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス
実施責任者	趙松吉 福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター先端臨床研究センター教授(第19期生)
参加者	65名 日本支部会員及び第40期、第41期研究者および財団関係者など
来賓	吉倉 和宏 日本財団常務理事
テーマ	日中看護・介護・医療シンポジウム
プログラム	<p>◆第一部:開会式</p> <p>開会挨拶: 趙 松吉 笹川同学会日本支部会長(第19期)</p> <p>挨拶: 趙 群 笹川同学会理事長(第10期)</p> <p>祝辞: 吉倉 和宏 日本財団常務理事</p> <p>◆集合記念写真</p> <p>◆第二部:学術シンポジウム</p> <p>Session 1 看護・介護</p> <p>座長: 胡秀英 四川大学華西医院・華西護理学院教授(第18期) 吳小玉 京都光華女子大学健康科学部看護学科教授(第21期)</p> <p>講演1: 謝海棠 国際医療福祉大学看護学科准教授(第21期) 「日本の超高齢社会におけるエンドライフケアの実践」</p> <p>講演2: 張曉春 梅花女子大学看護保健学部看護学科准教授(第24期) 「発達障がい児の睡眠問題と必要な支援」</p> <p>講演3: 胡秀英 四川大学華西医院・華西護理学院教授(第18期) 「中国の介護保険制度と医養結合介護モデル」</p> <p>講演4: 吳小玉 京都光華女子大学健康科学部看護学科教授(第21期) 「日本と中国における要介護高齢者の日常生活自立度及び 介護者の健康統制観の相違」</p> <p>Session II 医療</p> <p>座長: 許 順 中国医科大学附属第一医院胸外科教授(第15期) 趙松吉 福島県立医科大学先端臨床研究センター教授(第19期)</p> <p>講演5: 吳秀賢 兵庫医科大学泌尿器科講師(第19期) 「前立腺がんの最新治療」</p> <p>講演6: 張志文 中国人民解放軍総医院第四医学中心脳神経外科教授(第16期)</p>

「中国脳血管外科の発展及び当施設の臨床実践」
 講演 7: 趙群 遼寧省政治協商会議常務委員、中国医科大学教授(第 10 期)
 「中国の医療保険制度の現状」
 講演 8: 安達勇 日中医学協会副会長・理事、静岡県立静岡がんセンター参与
 「緩和ケアからの学び-がん医療 50 年のあゆみから-」
 閉会挨拶 : 許順 笹川同学会副理事長兼副秘書長(第 15 期)
 ◆第三部: 情報交換会
 挨拶 趙松吉 笹川同学会日本支部会長(第 19 期)
 挨拶 趙群 笹川同学会理事長(第 10 期)
 乾杯挨拶 安達勇 日中医学協会副会長



趙松吉先生挨拶



趙群先生挨拶



吉倉和弘常務理事挨拶



胡秀英先生、吳小玉先生



謝海棠先生



許順先生、趙松吉先生



吳秀賢先生



張志文先生



趙群先生



安達先生



集合写真

報告:シンポジウムでの 7 講演は、いずれも日中で現在大きな問題になってきている医療問題について、その背景や現状、さらに講師ご自身の仕事の話を変えながら詳しく解説された。参加者一同、日中両国の医療における現状や課題、サイエンスの最新の話題について知ることができる良い機会になった。

4 日中共同フォーラム

4 日中共同フォーラム

4.1 日中がん対策ハイエンドフォーラム

開催日	2019年9月28日(土)
場所	瀋陽和平艾美酒店 3階「宴会庁」(遼寧省瀋陽市)
実施責任者	許順 中国医科大学附属第一医院胸外科教授(第15期)
参加者	約200名 遼寧省医師
専門家派遣	木澤義之 神戸大学医学部附属病院緩和支援治療科特命教授
来賓	伊藤秀俊 日本国駐中国大使館一等書記官
プログラム	<p>開会挨拶 許順 中国医科大学附属第一医院胸外科教授(第15期) 笹川陽平 日本財団会長 趙群 笹川同学会理事長(第10期生) 劉瑩 中国医科大学副校長 高明宇 遼寧省衛生健康委員会副主任</p> <p>講演① 木澤義之 神戸大学医学部附属病院緩和支援治療科特命教授 「日本における緩和ケア これまでとこれから」</p> <p>講演② 王玉梅 中国医科大学附属盛京医院ホスピス病棟主任/副教授 「緩和医療—がん患者の命の尊厳を守って」</p> <p>講演③ 車国衛 四川大学華西医院胸部外科副教授 「リハビリテーション外科実践における課題と対策」</p> <p>講演④ 胡堅 浙江大学附属第一医院胸部外科主任、教授 「ハイテクノロジーハイブリッド手術-気道再建の新戦略」</p> <p>講演⑤ 陳昶 上海市胸科医院胸部外科副教授 「上海市胸科医院における肺移植の実践と考え」</p> <p>講演⑥ 譚鋒維 中国医学科学院腫瘤医院胸部外科副主任 「免疫療法の進展」</p>



許順先生挨拶



笹川陽平会長挨拶



趙群先生挨拶



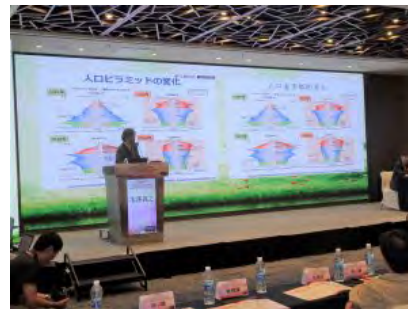
劉瑩先生



高明宇副主任



木澤義之先生



王玉梅先生



集合写真

報告：演者達の胸部外科の最前線に焦点を当てた講演内容は参加者一同の好評を得られ、熱のこもった討論を引き起こし、充実な交流ができた。本会議が笹川生の熱のこもった雰囲気の中で幕を下ろし、笹川生達はこのような会議が非常に必要とされ、今後共ぜひ参加したいと表明した。

2019年笹川医学奖学金同学会肿瘤对策高峰论坛

★会议时间 (8:00 - 12:00)

8:00—8:15 开幕式致辞

许顺

8:15—8:45 领导致辞

医大一院领导
笹川同学会理事长 赵群
日本财团会长 笹川陽平
中国医科大学副校长 刘莹
辽宁省计健委副主任 高明宇

8:45—9:00 新书发布会及中国医促会气管外科、康复学组受聘证书颁发

9:00—9:10 合影

9:10—9:40 日本舒缓治疗的过去现在和将来

木澤義之

9:40—10:00 缓和医疗—守护肿瘤患者生命的尊严

王玉梅

10:00—10:20 加速康复外科实践中的困难与策略

车国卫

10:20—10:30 提问与讨论

10:30—10:40 茶歇

10:40—11:00 高新技术杂交手术平台—气道重建新策略

胡坚

11:00—11:20 上海市肺科医院肺移植的实践与思考

陈昶

11:20—11:40 免疫新辅助治疗进展

谭锋维

11:40—11:50 提问与讨论

主办单位：笹川医学奖学金同学会 中国医学协会

支持单位：国家卫生健康委员会 日本财团

承办单位：笹川医学奖学金同学会辽宁地区分会

会议时间：2019年9月28日(周六)

会议地点：沈阳和平艾美酒店

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

4 日中共同フォーラム

4.2 日中高齢者対策ハイエンドフォーラム

開催日	2019年11月23日(土)
場所	成都明宇尚雅飯店「逸雅庁」(四川省成都市)
実施責任者	胡秀英 四川大学華西看護イノベーション研究センター長(第18期)
参加者	約100名 四川省医師・看護師
来賓	伊藤秀俊 日本国駐中国大使館一等書記官
プログラム	<p>開会挨拶 胡秀英 四川大学華西看護イノベーション研究センター長(第18期) 周昌華 四川省看護学会秘書長 趙洪偉 四川省衛健委医政医管處處長 李忠金 笹川同学会秘書長(第12期生) 岡田光子 日中医学協会事務局次長</p> <p>講演① 伊藤秀俊 日本国駐中国大使館一等書記官 「日本における高齢者対策」</p> <p>講演② 田素斎 河北医科大学第二医院養老センター長(第22期生) 「高齢者に対する健康サービスに関する国家政策」</p> <p>講演③ 劉敏 成都市第八人民医院副院長 「高齢者病院医養結合探索と発展」</p> <p>講演④ 葛寧 四川大学華西医院老年医学センター教授 「医養結合モデルに対する現代老年医学の役割」</p>



開会式



胡秀英先生



伊藤秀俊氏



田素齋先生



劉敏先生



葛寧先生



集合写真

報告：中国においては日本を上回るスピードで高齢化が進んでいるため、高齢者に対する医療・介護は、社会的にも喫緊の課題となっていて政策制度面での強い実行力が求められていることがよく分かりました。医療介護での課題解決に高齢化先進国である日本の知恵や経験を大いに役立ててほしいものと思いました。

会议议程

时间

2019年11月23日(周六)上午

地点

成都明宇尚雅饭店 逸雅厅

学术研讨会议程

一、开幕式

主持人 胡秀英 笹川18期生同学 / 笹川医学奖学金同学会常务理事
四川大学华西护理创新研究中心主任
四川省护理学会老年专委会主委
成都护理学会理事长

议程一 2019年老年护理学术年会开幕式暨团体标准“老年照护标准及评价标准”发布会

08:30-08:35	四川省护理学会周昌华秘书长	致辞
08:35-08:40	四川省卫健委医政医管处赵洪伟处长	讲话
08:40-08:45	团体标准“老年照护标准及评价标准”发布会	启动仪式
08:45-08:50	合影	

议程二 2019年中日老龄化对策论坛开幕式

09:00-09:05	笹川医学奖学金同学会	秘书长	李志金
09:05-09:10	日中医学协会	事务局次长	冈田光子

二、专题讲座

中日老龄化对策

主持人 胡秀英 刘艳

9:10-10:10	日本的老龄化对策 伊藤秀俊 日本国驻华使馆一等书记官
10:10-10:40	应对老龄化如何构建老年健康服务体系 田素斋 河北医科大学第二医院养老中心主任
10:40-11:10	老年医院医养结合探索与发展 刘敏 成都市第八人民医院副院长
11:10-11:40	现代老年医学助力规范医养结合养老模式 葛宁 四川大学华西医院老年医学中心教授
11:40-12:00	讨论
12:00-13:30	午餐

5 広報活動

热烈祝贺

王松灵（8期）教授 首都医科大学副校长 当选中国科学院院士
张学（11期）教授 哈尔滨医科大学校长 当选中国工程院院士

国家卫健委关于第43期笹川医学奖学金项目研究员选拔工作通知（草案）

一、选拔范围

共同研究型：

被推荐人员须为以下单位的正式工作人员。

（一）各省（区、市）卫生健康委员会及直属的医疗、科研、预防、保健等单位；

（二）各直辖市的区级医疗卫生机构；

（三）省会城市的市级医疗、科研、预防、保健等单位；

（四）高等院校、医学专科学校（医学、药学及日语专业）；

（五）国家卫生健康委员会的直属和联系单位；

（六）部队单位；

（七）有关部、委、局直属的医药卫生机构；

（八）合资、民营的三甲医院及其附属科研机构；

（九）国家市场监督管理总局直属的医药卫生机构。

攻读博士学位型：

被推荐人员须为以下单位的正式工作人员。

（要求同上）

二、被推荐人员资格条件

共同研究型：

（一）1971年4月1日以后出生。

（二）职称：教授

（三）特别优秀者年龄可适当放宽至60周岁（近5年发表论文的影响因子累计达10分以上、或单篇论文影响因子在5分以上、该学科带头人、长江学者、国家级科技成果奖二等奖以上获得者等）；特别优秀的副教授、讲师也可申请（近5年内发表论文的影响因子累计达20分以上、以第一作者或通讯作者身份发表论文的影响因子在5分以上）、国家级科技成果奖二等奖以上获得者、国务院杰出青年称号获得者等）。

（四）拥有专业论文、论著、科研成果等。

（五）报名时提交科研成果（英语论文清单：作者姓名、题目、学术刊物名称、卷/号/页数等，并另附各自的影响因子、引文索引等清单，拥有专业论文、论著、科研成果等。）。

（六）英文或日文可与合作伙伴顺畅交流和沟通，并可发表英文论文。

（七）研究目的明确，能顺利开展研究活动，愿为提高中国医疗水平作贡献。

（八）正在与日方开展共同研究者

（九）所在单位同意派出。

（十）报名时取得日方接收单位（共同研究者）的同意函。

攻读博士学位型：

（一）1981年4月1日以后出生。

（二）中国教育部承认的本科毕业生、硕士毕业生及在读博士生；在日本的中国籍研究者（以学成回国为前提条件）。

（三）报名时能提交科研成果（英语论文清单：作者姓名、题目、学术刊物名称、卷/号/页数等，并另附各自的影响因子、引文索引等清单。）

（四）英语IELTS6.0、TOEFL iBT80（TOEFL PBT550）以上或日语能力考试（JLPT）N2级以上者，同时满足以上两个条件者优先选拔。

（五）有赴日本研究的愿望，研究目的明确，能顺利开展研究活动，愿为提高中国医疗水平做出贡献。

（六）报名时已取得日方指导老师的同意接收函。

三、派遣时间

共同研究型：6个月（最短3个月）

攻读博士学位型：2-4年

四、费用

共同研究型：

在日期间的生活费和住宿费（20万日元/月）及科研费（10万日元/月提供给接收单位）由奖学金承担；被推荐人1次往返日本国际旅费、海外旅行伤害保险等费用由派出单位承担，费用标准由派出单位自行规定。

攻读博士学位型：

在日期间前2年的生活费和住宿费（10万日元/月）及学费（70万日元/年）由奖学金承担；被推荐人面试时的差旅费、出国前的语言培训费（含住宿和交通）以及1次往返日本国际旅费、海外旅行伤害保险等由派出单位承担，费用标准由派出单位自行规定。

五、其他要求

(一) 优先推荐省部委医学共建院校、国家临床重点专科建设项目所在单位人员，承担或参与重点项目的学科带头人、业务骨干，可成为各个学科领军人物的中青年专家。

(二) 优先派遣以下领域人员：1.心血管疾病（再生医学）2.临床检验3.儿科4.病理5.麻醉6.产科7.消化道肿瘤8.脑血管9.院内感染

(三) 被推荐人员应当符合所在单位报考在职学历教育和访问学者的有关规定。

(四) 应当充分考虑被推荐人员所在科室的科研和工作条件及其回国后的工作安排，保证被推荐人员在完成学习任务后能按期回国服务。

(五) 被录取后，无特殊情况不可放弃。

六、选拔程序

共同研究型：

(一) 由项目办公室审核申报者的申报材料是否齐全。

(二) 由项目专家评审委员会对申报材料进行专业评审并最终确定20名人选。

(三) 研究员可根据各自安排在2021年4月1日后赴日即可，为参加日方为研究员举办的欢迎会和交流会，2021年的9月份研究员须留在日本。

攻读博士学位型：

(一) 由项目办公室审核申报者的申报材料是否齐全。

(二) 由项目专家评审委员会对申请人进行面试（专业和外语），最终确定10名人选。

(三) 于2021年4月初赴日。

七、申请材料填写及报送要求

为确保选拔录取工作进行顺利，各省级卫生健康委员会行政部门请在2020年3月1日前，将本通知复印件印发给各单位及被推荐人员本人。被推荐人员收到通知后，可通过个人渠道或奖学金项目渠道了解适合本人的研究专业，联系在日本的研究单位，并取得初步同意接收函（格式不限，电子邮件、信函均可）。

收到接收函后，按照《填写方法》填写后附的推荐表和申请书，并准备申请所需的相关材料，所有材料一式两份，于2020年7月31日前寄至笹川医学奖学金项目办公室，并同时将申请书的电子版及所有相关材料扫描件发送邮件至sc1000@vip.163.com。申请书、推荐表和填写方法请从www.sskw.net下载。

2019年笹川医学奖学金同学会 吉林地区学术交流会

笹川医学奖学金同学会吉林地区学术研讨会，于2019年9月7日在吉林世贸万锦大酒店召开。来自吉林地区的笹川同道35人共聚一堂，就医生多点执业的现状与课题进行了深入的探讨和交流。

会议邀请到的日方嘉宾有：日中医学协会事務局次长冈田光子女士，笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金先生等。参会人员包括来自吉林、长春，延吉等地的笹川生。

会议由日中医学协会事務局次长冈田光子女士，笹川医学奖学金同学会秘书长

李忠金先生分别致开场辞，并对笹川医学奖学金项目未来的发展做出了令人激动的展望。之后，各往届笹川生进行了自我介绍，以及目前在各个医学领域上的经验以及看法，回忆了在日本学习工作期间的经历，向大家介绍了日本医疗及护理领域的人文关怀，有很多中国值得借鉴的地方。

随后，由吉林大学第一医院李娜教授，详细阐述了《急性妊娠期脂肪肝的识别和护理》的经验。

吉林大学中日联谊医院孟繁波教授，以详实的数据向大家介绍了目前中国对于

《运动与健康》的探索中的一些问题，这也引发了大家的热烈讨论。

最后，由延边大学附属医院吴龙仁教授介绍了《多点执业》。使大家充分了解了多点执业的概念、条件，以及目前该问题的目的与难点。

本次会议在同学们的热烈的讨论气氛中拉上闭幕，同学们纷纷表示在这样的会议上交流经验非常有必要，今后一定会积极参加，将同学会的工作以及本职工作推上一个新的台阶。



■ 吴龙仁（20期）教授在演讲



■ 李娜（25期）教授在演讲



■ 孟繁波（25期）教授在演讲

笹川医学奖学金西南地区分会



2019年11月23日笹川医学奖学金同学会西南地区分会在成都召开。来自西南地区的笹川同志们共聚一堂,就中国生物制品(血液制品)安全对策等课题进行了深入的探讨和交流。

会议邀请到的日方嘉宾有:日本红十字会近畿地区血液中心制剂部长木村贵文先生、日本驻华大使馆一等书记官伊藤秀俊先生、日中医学协会事務局次长冈田光子女士和日中医学协会事務局助理寄兼良辅先生。中方则有笹川医学奖学金同学会常务理事刘爱民先生、笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金先生和来自成都、泸州和重庆等地的笹川生等40人参会。

会议由笹川医学奖学金同学会西南地区负责人刘爱民先生主持,日中医学协会事務局助理寄兼良辅先生和日本驻华大使馆一等书记官伊藤秀俊先生以及李忠金

秘书长分别致辞。随后由木村贵文先生做专题报告,题目为《日本的血液安全策略》。木村先生向大家介绍了日本的血液安全最新技术和策略,尤其是日本最新采用的戊型肝炎的筛查策略对中国未来的血液安全非常有借鉴意义。

随后,成都生物制品研究所疫苗研究室主任,30期笹川生刘兰军主任作了《副粘病毒反向遗传学技术在疫苗研发中的应用(Application of Paramyxovirus Reverse Genetics Technology in Vaccine Research & Development)》的演讲。向参会同学详细介绍了中国的疫苗发展现状及最新技术应用水平。

四川大学华西药学院黄静教授分享了《桂花与婴儿湿疹——基于桂花活性成分的产品研发思路和历程》。他以桂花活性成分开发的成功经验向大家介绍了用于治

疗婴儿皮肤湿疹等皮肤疾患的皮肤恢复制剂(化妆品)的开发思路及经验,使大家受益非浅,开阔了思路,获得了与会中日专家的广泛好评。

最后刘爱民常务理事就《中国的血液安全现状》作了介绍,以回应木村先生对日本血液安全对策的介绍,使大家在对比中看到了中国和日本的输血差别。

会议主题清晰,血液安全和疫苗开发是受到全体医疗工作人员共同关注的话题,同学们参与度高,提问积极,反响热烈。

受邀演讲人员兼顾各专业,深入浅出,既有共同关心的血液安全和传染病等课题,又提示大家,血液(生物)制品的安全除了检测技术,还有社会的问题需要考。大家在交流中深受启迪。

2019年笙川医学奖学金同学会 粤湘两地学术交流会



于2019年6月15日在广州市华夏大酒店举行了笙川医学奖学金同学会粤湘两地学术交流会，共有50名左右笙川生参加了本次会议，来自广东地区及湖南地区的笙川同学们共聚一堂。就当下分级诊疗及多点就业大环境下医者身心行特点开展了热烈的讨论。本次会议参会人员包括来自广东及湖南两地共四十多位笙川生。

会议由笙川医学奖学金广东同学会理事长王甲东先生主持，笙川医学奖学金湖南同学会理事长李永国先生及笙川医学奖学金广东同学会副理事长丘勇超先生分别致开场辞。

随后由笙川第1期生李永国老师做专题报告，题目为《医改大潮中的选择与人生》。李永国先生向各位笙川同学分享了自己伴随新中国发展，医改一次次改革发展中，自己的每一个职业生涯转折点的选择。人生的每一步，都是在纷繁复杂的社会氛围中既做到不断的突破创新，但又不忘初心坚守底线。别人看

起来都不可能的事情，李永国先生坚持做了下来，并且实践出一片佳绩。李永国先生的分享让在场的同学发出一阵阵会心的鼓掌与大笑。人生半百，回首往事，洒脱自如，也是活出了一个境界。

接下来笙川第5期生丘勇超老师作了《分级诊疗中的民营医疗——我的一点体会》的演讲。木棉花医生集团经历了2018年的发展，今年已经开出第一家分院。木棉花医生集团创造了一个又一个佳绩。在众多的医生集团中，首年盈利的本就少之又少，能迅速扩张并开办分院的更是颇为少见。单月门诊量每个月都在创历史新高，引发卫健委的进一步关注与支持。2019年下半年第三家分院以及月子中心即将迎来开业。见证了木棉花的历年迅速发展让在座的每一位笙川生深受触动。医生的职业选择除了传统路线，今后必将迎来更多的发展机遇。从成功的例子中吸取经验是最好不过。

最后笙川第16期生刘焕亮先生以《新医改政策下的快乐竞争力》为演讲

题目。多点就业的放开对业内人士都是一个机遇也是一个考验。传统路线具备实力与能力并不完全代表就能适应体制外的发展。职业需求会有所转变。在这个情况下，医生个人如何调试自己的状态，满足新的职业需求，并且能激发更多的工作热情是一个需要学习和适应的事情。刘焕亮先生以风趣、幽默的案例、观点的分享引发在场一阵阵的掌声与讨论。医学不只是一门冷冰冰的科学，医学实际上是温情的、充满人文关怀的学科。以哲学、心理学的知识融汇到医学实践中，对于新医改政策下个人的适应和转变，是至关重要的。

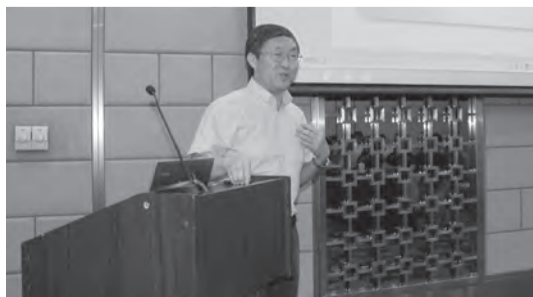
本次同学会会议在热烈的讨论气氛中顺利结束，医改大潮必定越来越蓬勃发展。短短一年间已经爆发出众多新生力量与格局。无论年龄，只要抱着一颗不断学习的心，笙川生必定能在社会医改大潮发展中成为中流砥柱。



■ 李永国（1期）教授在演讲



■ 丘勇超（5期）教授在演讲



■ 刘焕亮（16期）教授在演讲

2019年笹川同学会华东分会论坛活动纪实

2019年10月，正是金秋送爽，丹桂飘香的美好时节，又恰逢中华人民共和国70周岁华诞，全国人民都沉浸在为伟大的祖国母亲庆生的喜悦心情中；此情此景下，笹川医学奖学金同学会华东地区分会论坛，在美丽的苏州昆山隆重举行！本次论坛创下了几个“第一”：第一次将论坛设置在美丽的金秋10月；人数规模是有史以来的第一；出席嘉宾的级别也是举办以来的No.1。出席本次论坛的日方嘉宾有：日本财团常务理事吉仓和宏、项目主管中村真美子、项目负责人野村美公、日本和平财团中国室项目主管胡一平；日本驻华大使馆一等书记官伊藤秀俊；日中医学协会

事务局长本田伸吾等；中方的嘉宾有：笹川同学会理事长赵群、副理事长许顺、秘书长李忠金和常务理事殷猛等。参会的人员不仅包括了上海、江苏、浙江、山东和江西地区的同学43名，还邀请到了北美地区分会会长张海齐同学；此外，演讲嘉宾中还包括了上海市东方医院心脏中心运营主任陈军先生和加拿大SOTA生物医疗投资有限公司董事长、加中健康产业联盟副理事长鲁凤侑先生。嘉宾和同学们济济一堂，针对本次论坛的主题：“多点执业的现状与存在的问题”开展了主题演讲和讨论。

会议由殷猛同学主持，由赵群理事长、吉仓和宏先生、伊藤秀俊书记官、本

田伸吾先生等嘉宾依次致辞。嘉宾们追忆历史，高度肯定了笹川医学奖学金为中国医学发展作出的贡献；历史事实证明，中日两国间充分的交流、取长补短对于两国关系的发展和人民福祉的提高十分重要，这一点不仅适用于过去，在当下，以及不久的将来，都将在国际社会发展起着举足轻重的作用。笹川医学奖学金项目必将成为中日友好交流的经典案例，为中日关系的良好发展作出历史性贡献。

第一位讲者是特邀嘉宾之一，上海市东方医院心脏中心运营主任陈军先生，他的演讲题目是：“大病区管理体系的思考”。演讲一针见血的指出，医疗流量运



■ 孙伟（18期）教授在演讲



■ 殷猛（27期）教授主持会议



■ 万双林（26期）教授在演讲



■ 张伟（30期）教授在演讲



营的核心工作就是：1、病人在哪里？2、如何带过来？医疗资源优化配置的核心问题就是把合适的病人交给合适的医生。然而我国分级诊疗体系尚未成熟，直接面对患者的基层全科医生与三甲医院的专科医生之间联动并不活跃，转诊成为推诿、转诊成本居高不下等现象比较普遍，而在临床方面，低水平重复的数量多，体现上级医疗机构临床水平的转诊反而比较少见。究其原因，归结为专科和全科医生在疾病的诊疗认知水平上不统一。随后，他举例说明，解决这类问题的一些方法，比如赋能大病区管理系统，对于一些慢性疾病，在全科和专科医生之间建立闭环系统，通过上级医疗机构对基层医务人员的有效培训，甄别需要转诊至上级医疗机构的患者，并经过适当的专科治疗后，继续回到当地社区医疗机构进行随访。此外，他还根据国务院印发的关于推进医疗联合体建设的意见，提出建立专科联盟的设想。不同于以往医院为单位成立联盟，专科联盟是以某一专科为基础形成独立于医院管理以外的学术联盟，将使患者的就医流程更趋于理性，优化医疗资源利用效率，方便患者。

第二位讲者是临床医师的代表，上海长征医院普通外科主任医师张伟同学，他的演讲题目是“医改之多点执业-患者考量”。他从患者的角度出发，形象的说明了“找医生是个技术活”。面对各种医院、专科的排名体系，同时互联网医疗

的日益发达，各种“网红医生”也比比皆是，可以参考的信息愈发丰富的同时，患者寻找最适合自己的医生反而变得困难重重。而作为患者心目中的好医生，除了医疗技术和科研能力以外，沟通能力和科普能力也是十分重要的，因此，医疗评价体系应该更多的展示医生的能力，把选择权留给患者，才能在多点执业制度下，筛选出真正技术好、勤恳敬业的医生让患者知晓。此外，能够让医生安心执业，避免受到恶意伤害的医疗制度建设十分重要，这与实现分级诊疗制度的意愿也是一脉相承的。

随后，来自浙江大学附属邵逸夫医院的万双林同学作了题为“对医师多点执业的几点思考”的演讲，从医生本身的角度，来讨论现有的多点执业制度。他首先阐述了多点执业的意义，主要是有利于平衡各地医疗资源、提升医生收入、提升医疗水平欠发达区域医生水平和缓解基层医疗需求等等，但是目前多点执业实施并不理想，反而是个人“走穴”现象居多。原因主要是多点执业存在技术上的风险、不利于对患者的持续追踪以及对本单位工作产生影响等。解决这些问题的方法主要是从行政制度改革出发，将事业单位管理体制逐渐转为市场化管理体制，并对利益和责任划分、风险管理出台细则，保障医生的权益，同时对“走穴”进行更有效管理，确保多点执业向有利于广大人民健康的方向发展。

来自江苏省中医院肾内科的孙伟同学作了题为“中医振兴与多点执业”的报告。他指出，目前我国对中医发展高度重视，国际上对中医的价值认可度也在迅速升高，但中医的发展，多点执业依然存在很多问题。中医需要更广泛的宣传和充分推广，中医医生本身也要适应现代医疗疾病谱变化，学习更现代的疗效验证方法；良好的多点执业行为不仅需要好的外部环境和政策扶持，也需要医生个人道德修养的提高；医疗本来是根植于人民生活中的行为，如何将这种行为真正回归到人们的日常生活，需要多方共同探讨，摸索前行，并形成有效的机制。

最后，特邀嘉宾加拿大SOTA生物医疗投资有限公司董事长、加中健康产业联盟副理事长鲁凤侑先生做了题为“脑卒中康复培训项目介绍”，介绍了该公司对于脑卒中患者康复培训的项目。

演讲环节结束后，大家进行了热烈的讨论，同时也趁此机会相互作了简单介绍，促进同学之间的了解，增进感情。会后，在日本财团的大力支持下，同学们在恳亲会上欢聚一堂，畅谈理想和未来，许久未见的同期生、在同一个中心学习的师兄姐妹们，抓住这次难得的机会合影留念，回顾往昔，感慨笹川项目对人生影响之大。最后，在互道珍重的依依别情中，活动徐徐拉下帷幕。

2019年笹川医学奖学金同学会 辽宁地区学术交流会



本会议于2019年4月27日在辽宁沈阳举行，来自辽宁地区的笹川同道们共聚一堂，就中国医学教育的现状与课题进行了深入的探讨和交流。

会议邀请到的日方嘉宾有：日本财团理事长尾行武寿，日本财团常务理事吉仓和宏，笹川项目负责人中村真美子，笹川和平财团中国室主任胡一平，笹川保健财团理事长佐藤英夫，北海道医疗大学名誉教授石垣静子，日中协会事务局长本田伸吾，日中医学协会事务局长助理寄兼良辅

等。中方则有笹川医学奖学金同学会理事长赵群教授，中国医科大学副校长于晓松教授，笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金先生等。参会的人员包括来自沈阳、大连等地的笹川生。

会议由笹川医学奖学金同学会副会长许顺教授主持，尾行武寿理事长及赵群理事长分别致开场辞。随后由石垣静子教授做专题报告，题目为《追求以人为本的医疗》。石垣教授，用详实的数据，向大家介绍了日本医疗及护理领域的人文关怀，

有很多可以让中国值得借鉴的地方。

随后，于晓松教授作了《中国高等医学教育改革开放四十年发展历程与创新提升》的演讲。向参会同学详细介绍了中国高等医学教育的发展历程和辉煌成就。

中国医科大学附属第一医院住培部主任姜红堃教授分享了《探索中的中国住培骨干岗位导师制度》。他以实际的详实数据向大家介绍了中国对于住培医生培训探索中的一些成就和问题，这也引发了大家的热烈讨论。

最后，由中国医科大学附属第一医院全科医学副主任王爽教授向与会同学介绍了《中国医科大学—笹川医学奖学金全科医生骨干医师培训班五年回顾及展望》。使大家充分了解了该项目的开展情况和所作出的卓越成就。

本次会议在同学们的热烈的讨论气氛中拉上闭幕，同学们纷纷表示这样的会议非常有必要，今后一定会积极参加，将同学会的工作推上一个新的台阶。



■ 赵群（10期）理事长致辞



■ 笹川保健财团 石垣静子教授在演讲



■ 日本财团理事长 尾形武寿先生致辞



■ 许顺（15期）副理事长主持会议

2019年笹川医学奖学金同学会 陕西、河南、河北地区学术交流会



■ 郭英（27期）教授在演讲



■ 田素斋（22期）教授在演讲

11月16日下午，2019中日笹川医学奖学金项目学术交流会在西安君乐城堡酒店举行，来自陕西、河北、河南、甘肃、内蒙等地的笹川生出席会议。

日中医学协会事务局长本田伸吾，笹川生同学会秘书长李忠金出席会议并致辞。学术活动由笹川生同学会常务理事、

西安交大外国语学院硕士生导师李国栋副教授主持。

此次会议的主题为“中国分级诊疗的现状及存在的问题”，会议特邀西安交大第一附属医院王利娟副主任医师作专题报告，西北大学医学院郭英副教授，河北医科大学第二医院田素斋主任护师分别围绕

第三方独立医学实验室助力国家分级诊疗、医师多点执业的现状及相关问题发言。与会人员就分级诊疗、医师多点执业等问题展开讨论，提出了许多建设性意见。



抗击疫情 我们与你在一起

2020年的开年很特别，筵川医学奖学金同学会在结束了去年一整年的忙碌后，开始了新的工作计划与安排。然而，新型冠状病毒肺炎疫情突然造访，令我们所有人都措手不及。同学会办公室临时调整工作安排，并发起捐款倡议，呼吁同学们为疫情之战贡献力量。同学们一呼百应，慷慨解囊，在短时间内共汇集了来自各期筵川生的捐款近30万元。同学会办公室迅速将善款汇至华中科技大学武汉协和医院（院长：胡豫18期筵川生），用于购买防护物资以保护奋战在一线的医护人员（捐赠明细将公布在筵川网站）。此外，据不完全统计，共有来自广东、福建、陕西、浙江、江苏、辽宁等地的筵川生们作为当地医疗组的领队或成员

驰援武汉，如陈亚冈（4期）浙江医科大学附属第一医院、李飞（20期）空军军医大学第一附属医院、陈晓阳（29期）福建医科大学附属第二医院、方苓（32期生）广东省疾病预防控制中心、高坤（34期）江苏省中医院、李文雅（38期）中国医科大学附属第一医院等。20期的肖宁老师更是在国内疫情稳定后作为援外教授前往意大利。更有无数同学驻守在本地的发热门诊等抗击疫情的最前线，把守一方平安。众志成城，万众一心，相信每一个赶赴武汉和驻守在本地一线以及驰援海外的筵川生都将用自己的毕生所学来挽救病患的生命。这个冬日虽然艰难，但人心的集结给我们带来温暖。防控疫情狙击战，我们必将取得最终胜利。

贪生怕死

作者：李文雅

贪生怕死，人之常情。

接到前往武汉前线的紧急调令，我估计很多人脑海中都闪过“万一感染了怎么办……”，至少我想过，但又不想多想。我不是什么英雄，只是一个努力去忠于自己职业的普通人。跟懵懂的女儿拥抱告别时，说实话，很害怕那是最后一个拥抱，所以很用力地抱了抱，想让她记住这个拥抱不一样……还好，一切匆匆然，时间紧迫，拯救了关上家门后才流出的眼泪和复杂的心情。

扪心自问，我对死亡的恐惧似乎没有那么大，但与家人告别、与女儿拥抱告别的那一瞬间，突然领悟到，“怕死”的最主要的原因正是“贪生”！因为心有所念，心有所恋，有亲情、温情羁绊，世间纠缠，才会如此恐惧死亡。

有人说，死亡有三个阶段：心脏停止跳动代表着生理上的死亡；葬礼的结束意味着从社会上死亡；而世界上最后一个人将其遗忘，谓之最后的死亡。

深以为然！

关于幸福

作者：李文雅

当前疫情裹足，平日里的杂事纷扰减少很多，内心清净之后，发现可以让自己幸福的东西颇多。

被层层隔离捂得汗流浹背，两层口罩、护目镜、面屏遮掩呼吸、视物十分困难，脱掉所有束缚，长舒一口气时，莫名幸福；漫漫长夜后，清晨下班候车，温暖的阳光，早春的和风，树上鸟鸣，顿时心情雀跃；一五六岁男孩，不知父母双亡，在病房内懂事而自立，闻之，悲痛难耐，原来单单是活着就是如此的幸福！

平日里，这些东西挥之即来，貌似取之不竭，所以我们选择



■ 李文雅（38期）中国医科大学附属第一医院副教授

熟视无睹，也很难去珍惜，而只有在某个特定的时间、特定的环境下，就像这次疫情，潮无声息，把生活的繁复外衣冲刷地一干二净，显露了它本尊简单的模样，我们才能再次感受到日复一日般平凡中包含的“谜之珍贵”。希望在疫情潮水退却后，这种感动、感受成为我们的财富，也成为我们的伤疤，不被忘却，时常在心中低声鸣起。

国家卫健委关于第43期笹川医学奖学金项目 研究员选拔工作通知

一、选拔范围

共同研究型：

被推荐人员须为以下单位的正式工作人员。

(一) 各省(区、市)卫生健康委员会及直属的医疗、科研、预防、保健等单位；

(二) 各直辖市的区级医疗卫生机构；

(三) 省会城市的市级医疗、科研、预防、保健等单位；

(四) 高等院校、医学专科学校(医学、药学及日语专业)；

(五) 国家卫生健康委员会的直属和联系单位；

(六) 部队单位；

(七) 有关部、委、局直属的医药卫生机构；

(八) 合资、民营的三甲医院及其附属科研机构；

(九) 国家市场监督管理总局直属的医药卫生机构。

攻读博士学位型：

被推荐人员须为以下单位的正式工作人员。

(要求同上)

二、被推荐人员资格条件

共同研究型：

(一) 1971年4月1日以后出生。

(二) 职称：教授

(三) 特别优秀者年龄可适当放宽至60周岁(近5年发表论文的影响因子累计达10分以上、或单篇论文影响因子在5分以上、该学科带头人、长江学者、国家级科技成果奖二等奖以上获得者等)；特别优秀的副教授、讲师也可申请(近5年内发表论文的影响因子累计达20分以上、以第一作者或通讯作者身份发表论文的影响因子在5分以上)、国家级科技成果奖二等奖以上获得者、国务院杰出青年称号获得者等)。

(四) 拥有专业论文、论著、科研成果等。

(五) 报名时提交科研成果(英语论文清单：作者姓名、题目、学术刊物名称、卷/号/页数等，并另附各自的影响因子、引文索引等清单，拥有专业论文、论著、科研成果等。)

(六) 英文或日文可与合作伙伴顺畅交流和沟通，并可发表英文论文。

(七) 研究目的明确，能顺利开展研究活动，愿为提高中国医疗水平作贡献。

(八) 正在与日方开展共同研究者。

(九) 所在单位同意派出。

(十) 报名时取得日方接收单位(共同研究者)的同意函。

攻读博士学位型：

(一) 1981年4月1日以后出生。

(二) 中国教育部承认的本科毕业生、硕士生及在读博士生；在日本的中国籍研究者(以学成回国为前提条件)。

(三) 报名时能提交科研成果(英语论文清单：作者姓名、题目、学术刊物名称、卷/号/页数等，并另附各自的影响因子、引文索引等清单。)

(四) 英语IELTS6.0、TOEFL iBT80 (TOEFL PBT550) 以上或日语能力考试(JLPT)N2级以上者，同时满足以上两个条件者优先选拔。

(五) 有赴日本研究的愿望，研究目的明确，能顺利开展研究活动，愿为提高中国医疗水平做出贡献。

(六) 报名时已取得日方指导老师的同意接收函。

三、派遣时间

共同研究型：6个月(最短3个月)

攻读博士学位型：2-4年

四、费用

共同研究型：

在日期间的生活费和住宿费(20万日元/月)及科研费(10万日元/月提供给接收单位)由奖学金承担；被推荐人1次往返日本国际旅费、海外旅行伤害保险等费用由派出单位承担，费用标准由派出单位自行规定。

攻读博士学位型：

在日期间前2年的生活费和住宿费(10万日元/月)及学费(70万日元/年)由奖学金承担；被推荐人面试时的差旅费、出国前的语言培训费(含住宿和交通)以及1次往返日本国际旅费、海外旅行伤害保险等由派出单位承担，费用标准由派出单位自行规定。

五、其他要求

(一) 优先推荐省部委医学共建院校、国家临床重点专科建设项目所在单位人员，承担或参与重点项目的学科带头人、业务骨干，可成为各个学科领军人物的中青年专家。

(二) 优先派遣以下领域人员：1.心血管疾病(再生医学) 2.临床检验3.儿科4.病理5.麻醉6.产科7.消化道肿瘤8.脑血管9.院内感染

(三) 被推荐人员应当符合所在单位报考在职学历教育和访问学者的有关规定。

(四) 应当充分考虑被推荐人员所在科室的科研和工作条件及其回国后的工作安排，保证被推荐人员在完成学习任务后能按期回国服务。

(五) 被录取后，无特殊情况不可放弃。

六、选拔程序

共同研究型：

(一) 由项目办公室审核申报者的申报材料是否齐全。

(二) 由项目专家评审委员会对申报材料进行专业评审并最终确定20名人选。

(三) 研究员可根据各自安排在2021年4月1日后赴日即可，为参加日方为研究员举办的欢迎会和交流会，2021年的9月份研究员须留在日本。

攻读博士学位型：

(一) 由项目办公室审核申报者的申报材料是否齐全。

(二) 由项目专家评审委员会对申请人进行面试(专业和外语)

语)，最终确定10名人选。

(三)于2021年4月初赴日。

七、申请材料填写及报送要求

为确保选拔录取工作进行顺利，各省级卫生健康委员会行政部门请在2020年4月1日前，将本通知复印件印发给各单位及被推荐人员本人。被推荐人员收到通知后，可通过个人渠道或奖学金项目渠道了解适合本人的研究专业，联系在日本的研究单位，并取得初

步同意接收函(格式不限，电子邮件、信函均可)。

收到接收函后，按照《填写方法》填写后附的推荐表和申请书，并准备申请所需的相关材料，所有材料一式两份，于2020年7月31日前寄至笹川医学奖学金项目办公室，并同时将申请书的电子版及所有相关材料扫描件发送邮件至sc1000@vip.163.com。申请书、推荐表和填写方法请从www.sskw.net下载。

乡村医生全科培训班总结

为了进一步提高乡村卫生人员的专业技术水平和整体素质，加强基层卫生服务人员的能力和水平，2019年10月5-6日，受国家卫健委的委托笹川同学会于山西省永和县人民医院举办了针对乡村医生的全科培训班。有六十多名村医生参加培训，西安交通大学附属第二医院内分泌科谢璇主任医师进行了糖尿病的诊治和患者管理

培训；陕西及西安市全科医生培训负责人陕西省邮电医院的顾韵主任医师进行了呼吸和循环系统常见病的基础用药和管理培训；西安交通大学附属第二医院消化科张军主任医师进行了消化系统常见疾病的基础用药和管理培训；西安交通大学日语系李国栋教授进行了日本人的生活方式与健康培训；西安市中心医院前主任张沥主任

医师进行了幽门螺旋杆菌防治相关要点的培训。

在培训期间各学员还将工作中存在的难题和授课专家们进行了相互交流，参加培训的乡村医生都觉得受益匪浅，希望能有更多的时间和专家们交流，本次培训得到永和县人民医院和各位乡医的大力支持和积极配合，此次医生培训圆满结束。



■ 山西永和县基层医生培训 左数3张军(11期)教授、左数4李国栋(16期)教授、右数1李忠金(12期)秘书长

2019年釜川医学奖学金同学会 肿瘤对策论坛



■ 安达勇教授参加肿瘤高端论坛

本会议由釜川医学奖学金同学会、日中医学协会主办，釜川医学奖学金同学会辽宁地区分会承办，获得了国家卫生健康委员会及日本财团的大力支持。来自辽沈地区的釜川同道们共聚一堂，就肿瘤防治等方面内容进行了深入的探讨和交流。

会议邀请到的日方嘉宾有：日本财团会长釜川阳平，日中协会副理事长安达勇，神户大学医学部附属病院教授木泽义之等。中方则有辽宁省卫健委副主任高明宇、中国医科大学副校长刘莹教授、中国医科大学附属第一医院副院长辛世杰教

授、中国医促会胸外科分会会长刘德若教授、釜川医学奖学金同学会理事长赵群教授、副理事长许顺教授、釜川医学奖学金同学会秘书长李忠金先生等。参会的人员包括来自沈阳、大连等地的釜川生。

会议由釜川医学奖学金同学会副会长许顺教授主持，辛世杰副院长、赵群理事长、刘德若主委、釜川阳平会长、刘莹副校长、高明宇副主任等人分别致辞。随后由木泽义之教授做专题报告，题目为《日本舒缓治疗的过去现在和将来》。木泽教授，用详实的数据向大家介绍了日本舒缓治疗的发展历程，其中有很多地方值得我们借鉴。

随后，中国医大附属盛京医院宁养病房主任王玉梅教授作了《缓和治疗—守护肿瘤患者生命的尊严》的演讲。向参会同学详细介绍了中国缓和治疗发展的现状及重要性。

接下来浙江大学医学院附属第一医院胸外科主任胡坚教授分享了《高新技术杂交手术平台—气道重建新策略》、上海肺科医院副院长陈昶教授分享了《上海



■ 神户大学医学部附属病院木泽义之教授演讲

市肺科医院肺移植的实践与思考》、中山大学肿瘤医院胸外科主任张兰军教授带来了《免疫治疗在可手术肺癌中的研究进展》、医科院肿瘤医院胸外科副主任谭锋维教授带来了《肺小结节精准治疗》，直击胸外科前沿的讲题，受到了与会专家的一致好评，大家讨论热烈，交流充分。

本次会议在同学们的热烈的讨论气氛中闭幕，同学们纷纷表示这样的会议非常有必要，今后一定会积极参加，将同学会的工作推上一个新的台阶。



■ 日本财团会长釜川阳平先生 致辞



■ 许顺（15期）教授主持会议



■ 赵群（10期）理事长 致辞

2019年中日老龄化对策论坛



■ (从左数)李忠金(10期)秘书长、冈田光子女士、胡秀英(18期)教授、(右1)伊藤俊秀先生(日本驻华大使馆一等书记官)参加老年护理学术会议

2019年11月23日,由笹川医学奖学金同学会联合四川省护理学会老年护理专委会举办的“2019年中日老龄化对策论坛”在成都成功举办。四川省卫健委医政医管处赵洪伟处长出席会议开幕式并做重要讲

话,四川省护理学会周昌华秘书长致辞,日本国驻华使馆一等书记官伊藤俊秀、日中医学协会事務局次长冈田光子、笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金等中日嘉宾参加会议。四川省护理学会老年专委会主

任委员/日中医学协会协会笹川医学奖学金同学会常委/四川大学华西护理创新研究中心主任胡秀英教授主持会议,来自国内外150余名医学专家、老年护理同仁参加了此次盛会,共话老龄化对策,为人民健康谋福祉。

本次大会分为三个议程。大会第一议程是“老年照护服务标准及服务质量评价标准”发布会,《老年照护服务标准》和《老年照护服务质量评价标准》是在四川省卫生健康委、四川省护理学会的组织推动下,由四川省护理学会副理事长及老年护理专委会主委单位四川大学华西医院牵头,成都市第八人民医院、成都市第五人民医院、成都市老年康疗院、成都市第四人民医院、福怡长者家园等多家单位共同参与,自2019年1月开始,凝聚团队的智慧和力量,经历11个月研究完成。《老年照护服务标准》、《老年照护服务质量评价标准》发布,将为四川省全省老年人



■ (从左三)李忠金(10期)秘书长、伊藤俊秀先生(日本驻华大使馆一等书记官)、(从右三)田素斋(22期)教授、冈田光子女士(事务局副局长)、胡秀英(18期)教授参加老年护理学术会议

机构、社区、居家老年人照护提供参考标准，为规范老年人健康服务，保障老年人安全与健康促进以及健康四川的实现贡献力量！四川省卫健委医政医管处赵洪伟处长在发布会上，对这两个标准的制订与发布给予了高度的肯定，高度赞扬四川省老年护理专委会单位四川大学华西医院以国家老年疾病研究中心为依托，大力发展老年护理、推进老年照护培训及规范化发展，引领我省老年护理进步；并且指明了通过规范发展专科护士培训、护理工作室等举措，促进我省老年护理及照护的发展，赵洪伟处长希望全省老年护理人员，能够精诚协作、扎根专业，从团标到省标，再到国标，逐步推进老年护理相关标准的可推广性，充分展现护理人员的职业价值。四川省护理学会周昌华秘书长指出此两项标准的发布，是2019年老年护理专委会及四川省护理学会的重要工作，意义重大。

大会第二个议程是“中日老龄化对策论坛”。日本国驻华使馆一等书记官伊藤俊秀先生从日本的照护保险制度、医疗与照护协作、认知障碍的照护等方面介绍了日本在老龄化人口占比逐年增高的形势下



■ 胡秀英（18期）教授主持会议

所采取的老龄化对策。来自河北医科大学第二医院养老中心的田素斋主任结合我国养老服务所面临的具体形势和问题，分析了我国养老服务的难点、痛点，系统解读了《关于建立完善老年健康服务体系的指导意见》，提出从政策、体系层面跟进我国老龄化的应对策略。成都市第八人民医院刘敏副院长，结合所在医院开展的实际工作，生动诠释了医养结合的模式探索。

四川大学华西医院老年医学中心葛宁教授，从临床医生的角度，深入浅出，通过老年综合评估、衰弱患者的管理、多药共用患者的管理分享，以全新的理念为大家讲解了现代老年医学如何助力规范医养结合养老模式。

大会第三议程是论文交流，本次会议受到了省内老年护理同仁的积极响应，共计征文115篇，涵盖了教学医院、院校、养老机构等多种性质机构的老年护理工作，共遴选28篇优秀论文，以“老年护理临床实践与研究”及“医养结合护理模式探讨”为核心，进行了大会现场交流。

会议期间，胡秀英主委主持了全体委员会，讨论了专委会未来的工作，各位委员积极建言献策，建议把学术交流会和三下乡活动都向基层倾斜，胡秀英主委做了总结，提出了2020年工作重点和创新方向，为专委会规划了美好的蓝图。

此次会议历时1天，全程座无虚席，学术氛围浓厚，护理同仁们积极性高，标准的发布更是让老年护理同仁士气大振，中日专家的分享堪称学术的饕餮盛宴。道阻且长，行则将至；行而不辍，未来可期。面对严峻的人口老龄化问题，老年护理专委会将在四川省护理学会的带领下继续努力前行。



■ 会议中的演讲者们

都江堰义诊



■ 冉玉平（4期）教授在给都江堰市人民医院皮肤科的医生分析病案



■ 笹川同学会向都江堰市人民医院皮肤科捐赠了设备



■ 冉玉平教授（4期）在义诊中

难治性溃疡病因学探秘》专题讲座。同时就怎样在临床诊治上下功夫、怎样将一个个病历转换成高分值的SCI论文进行经验传授。妙趣横生的讲座，如同破案一般解开了一个个疑难病例的谜团。接着，冉玉平教授对该院皮肤科医生提出的疑难病例进行了医学讨论和经验分享，让大家受益匪浅。会后，冉玉平教授一行到皮肤科进行了教学查房。

据了解，国家卫生健康委员会（原卫生部）与日本财团、日中医学协会于1986年在北京共同签署了为期10年的“笹川医学奖学金项目”协议。从1987年开始，由日本财团提供奖学金，中国政府每年派遣100名医学、医疗人员赴日本学习，为期1年。根据中日两国医学发展状况，从2018年4月开始，中方每年将向日本派遣研究员攻读日本的医学博士学位、还将派遣教授级专家和学者赴日本开展共同研究；同时，继续深化开展针对基层医务人员的培训活动、全国规模和地方规模的学术交流会以及一对一定向医疗扶贫等活动。

都江堰市人民医院皮肤科主任黄静红介绍，该院皮肤科于2018年5月有幸成为“笹川医学奖学金项目”定点指导、扶持单位，每半年接受由四川大学华西医院皮肤科冉玉平教授带队的项目资助及教学指导。冉玉平教授带队的“笹川医学奖学金项目”对都江堰市人民医院皮肤科未来发展以及人才建设有着不可估量的价值，相信在“笹川同学会”的帮扶下，都江堰市人民医院皮肤科及其他科室能进一步迈入更高舞台。

11月14日，由“笹川同学会”牵头、日中医学协会支持的“笹川医学奖学金项目”在华西冉玉平教授带领下来到都江堰市人民医院，对该院皮肤科临床工作进行指导并进行学术交流，同行的有中日笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金，日中医学协会事务局局长本田伸

吾。帮扶活动中，“笹川医学奖学金项目”向都江堰市人民医院皮肤科提供了办公、科研等用品资助，都江堰市人民医院党委书记黄东成代表医院接受捐赠物资。简短的赠送活动后，都江堰市人民医院及都江堰地区其他医院皮肤科医生听取了冉玉平教授为大家带来的《慢性

第二届釜川腹腔镜骨干医师 培训班总结

——吉林大学中日联谊医院



■ 吉林大学中日联谊医院腹腔镜培训



■ 吉林大学中日联谊医院腹腔镜培训第一排左3 孙立波教授（19期）、左4 赵树华教授（4期）左6 本田伸吾先生 日中医学协会事务局长 左7 李忠金秘书长（12期）

2019年8月5-8日,第二届釜川腹腔镜骨干医师培训班在吉林长春成功举行,来自全国9家医院的10名外科医师参加了培训。吉林大学中日联谊医院副院长房学东教授、胃肠结直肠外科四病区主任孙立波教授、胃肠结直肠外科三病区主任张海山教授、胃肠结直肠外科一病区主任冯野教授等22名授课教师参加了本次培训。

培训主要采用理论讲授和实践操作相

结合的方式进行。通过手术技能训练课程实践操作、手术视频教学应用、病例分析等三个项目开展了活动,注重手术技能训练课程的实际操作,真正做到了理论联系实践的完美结合。以实践操作为核心、模块化训练为手段、腹腔镜技术为重点、小班授课为基础的四个基本要素,精选普外科手术视频进行现场教学讲解,并跟各地的培训学员进行了现场交流分享,各位学

员对于使用手术视频讲解方式进行教学表示非常认可。

此次腹腔镜骨干医师培训班是以医师培训建设为关键,重点提升医师腹腔镜的临床技能水平和质量,从而带动医师的临床诊疗能力,让各位骨干医师能够在未来的医疗工作中以更高的质量承担医疗工作,积极推动外科医疗工作更好更快的发展。



■ 吉林大学中日联谊医院腹腔镜培训



■ 孙立波（19期）教授为学生演示中